

皆さん、おはようございます。新学期が始まりました。元気ですか！？元気があれば、始業式ができます。

夏休みの宿題はもちろん終わっていると思います。校長先生が出した2つの宿題はできましたか。「夏休みに心を鍛える」「とにかく一つだけ、まず行動すること、ずっと続けること」の2つです。家で、毎日できていた人は、当然、今日から学校で立派にできると思います。

今日から、2学期になりました。一年間で一番長い学期です。

2学期は、毎日コツコツと頑張る、意識的な努力が必要で大切です。

そこで、紹介したい詩がありました。坂村真民（さかむら しんみん）さんという詩人が書いた「タンポポ魂」という詩です。タンポポの魂というのは、タンポポの心という意味でしょう。読んでみます。

「タンポポ魂 踏みにじられても/食いちぎられても/死にもしない/枯れもしない/その根強さ/そしてつねに/太陽に向かって咲く/その明るさ/わたしはそれを/わたしの魂とする」

少し説明しますと、道端のタンポポに目を留める人はあまりいません。「タンポポが咲いている」と言われて初めて、「あっ、そうだね」と、やっと気付くくらいです。そんなタンポポは、人に踏まれたり、犬に食いちぎられたりして、ぼろぼろになっています。

しかし、タンポポという植物は、それくらいで死んでしまったり、枯れてしまったりはしません。それは、タンポポの根は丈夫で、土の中にしっかりと伸びています。真民さんは、「根強さ」と言っていますが、「根強い」という言葉は、「根がしっかりと張っていて簡単には揺るがない」という意味です。粘り強いという意味もあります。

枯れたかなと思っていたタンポポが、しっかりした根のおかげで、春になると黄色い小さな花を咲かせます。それが必ず空を向いて、太陽に向かって咲いています。明るい花です。そういうタンポポのような心を持ち続けたい、と言っているわけです。

皆さんにとって根を張るということは、勉強や言われたことをきちんとやり、言われなくてもやり、そして、粘り強くやり続けていくということです。そうすれば、きっと、みなさん一人一人の明るい花が咲きます。

最後にもう1回詩を読みます。

「タンポポ魂 踏みにじられても/食いちぎられても/死にもしない/枯れもしない/その根強さ/そしてつねに/太陽に向かって咲く/その明るさ/わたしはそれを/わたしの魂とする」

2学期、粘り強く、我慢強く、みんなを大切にして、勉強も運動も、もっともっとできるように、楽しみましょう。